

(7) 山歩きはどのように広がったか

・国内山行報告を長く記してこなかった

山行後報告を記し、写真もフィルムをきちんと保存しているSさんを倣わず、国内山行については①国土地理院の地形図に通過時刻を記す、②撮った、またはいただいた写真を選び、アルバムに貼る程度であった。

70歳を過ぎ、終活の一環として地図やアルバムや資料の廃棄を始めた際、記憶が残っているうちに思い出すことができる範囲の簡単な山行記録をスキャナーした写真と一緒に、すでに開設していたHP「今、山へ」に載せた。その後の山行については記憶が鮮明なうちにデジカメの写真とGPSの軌跡を一緒に載せている。

・56歳から80歳までの約25年間の記録を集計する

山歩きの態様を

ハイキング……日帰り、登頂が主

ハイキング(有雪期) ……同上の積雪期

トレッキング……主として数日間露営した縦走

トレッキング(有雪期) ……同上の積雪・残雪期

ヴァリエーション……有雪期の登攀・縦走

に分け、また

山域を

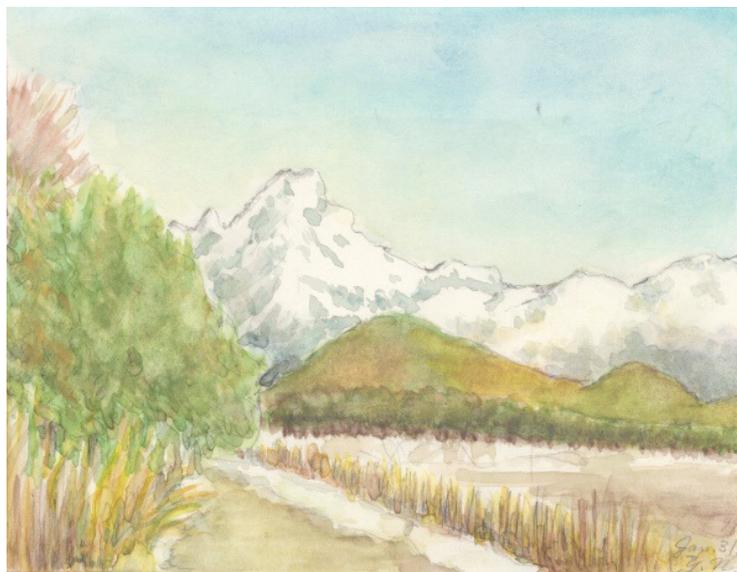
八ヶ岳……山小舎山花開がある八ヶ岳とその周辺

アルプス……日本アルプスとその周辺

近くの山……自宅(多摩市)から日帰りできる

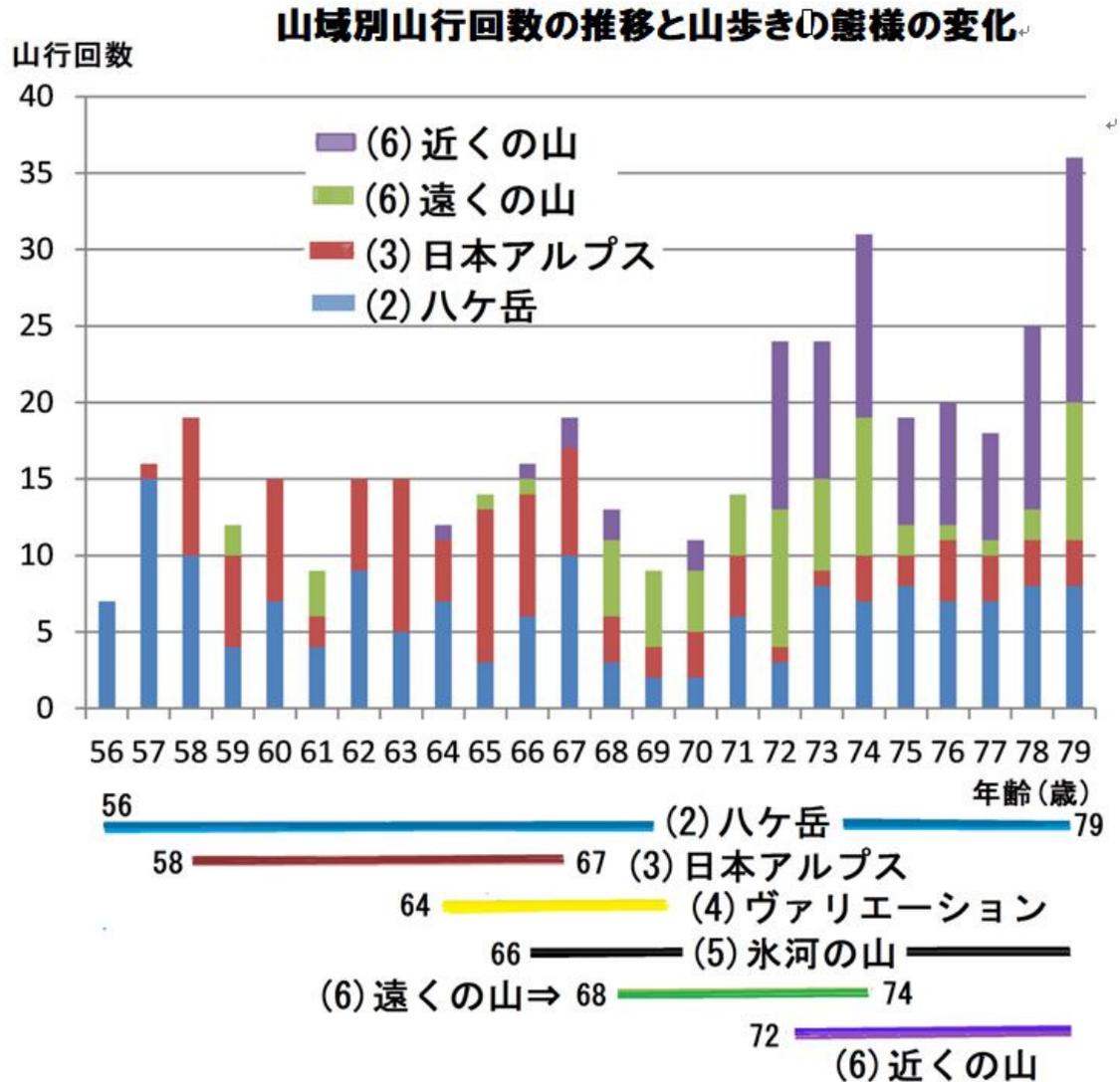
遠くの山……上記以外。主として100名山

に分け、集計してみた。



・山歩きがどのように広がったか

年齢別に山歩きの態様と山域ごとの山行回数を整理してみると、いつどのような山をどのように歩いてきたのか(前項(1)～(6))が明らかになった。



本稿の目次どおり、

「(2)56歳 気儘に八ヶ岳を歩き始め」、

「(3)58歳 真似し、習い、日本アルプスに山歩きが広がり」、

「(4)64歳 ヴァリエーション・ルートへ」、

「(5)66歳 氷河の山へ」、

「(6)68歳 日本の原風景の山へ」

と広がっている

なお、第2の職場が終わってから海外の氷河の山に魅せられていくつか歩いているが、これについては別項5に記す。

山行回数は加齢とともに増加しているが、山行日数の長い日本アルプスの一般縦走路をおおむね歩き終わり、山行日数の短い近くの山、遠くの山のハイキングが増加しているからである。八ヶ岳はいくつになっても歩いている。

・それほど歩いていない

下表の数字をみると、思っていたほど歩いていない。

山歩きの態様		山域				計	割合 %
		八ヶ岳	アルプス	近く	遠く		
ハイキング	無雪期	47	5	70	47	169	41
ハイキング	有雪期	103	17	12	13	145	36
トレッキング	無雪期	1	34		1	36	9
トレッキング	有雪期	10	9		5	24	6
ヴァリエーション	無雪期		7			7	8
ヴァリエーション	有雪期	11	14			25	
計		172	86	82	66	406	
割合 %		42	21	20	16		

年平均 17 回。最大は年 39 回(79 歳)、最少は 7 回(56 歳)。

別資料によると 61 歳から 80 歳までの山歩き日数は海外山行を除き年平均 37 日、最大の齢は 53 日(72 歳)、最少の齢は 19 日(71 歳)。いずれもたいしたことはない。(61 歳から 80 歳の間における 1 山行当たりの山歩き日数は 2.1 日)

驚異的な例であるが、尊敬する山の会の友人は 80 歳近くになっても毎年年齢の数だけ山頂を踏んでいる。

山歩きの態様は、大略でハイキングが 10 のうち 8、

山域では、同じく八ヶ岳が 4、日本アルプス、近くの山、遠くの山がそれぞれ 2、

である。

・山域ごとに山歩きの態様が異なる

八ヶ岳

ほとんどハイキング(それも有雪期が多い)で、他にヴァリエーションがある。なお、八ヶ岳の一般路も有雪期、無雪期ともにほとんど歩いている。ただし、佐久側、清里側はまったく歩いていない。

日本アルプス

ハイキングが 2.5、トレッキングが 5、ヴァリエーションが 2.5。有雪期が 5、無雪期が 5。

近くの山

全てがハイキングで、ほとんどが無雪期。

遠くの山

ほとんどがハイキングで、無雪期。



[\(目次に戻る\)](#)

[\(次項に進む\)](#)